

# 奈良県教育の基礎検討課題について

奈良県教育委員会

## 奈良県教育の基礎検討課題について

- 1 学力・学習意欲の向上・・・ P 1
- 2 規範意識の醸成・・・・・・・・ P18
- 3 体力の向上・・・・・・・・ P26

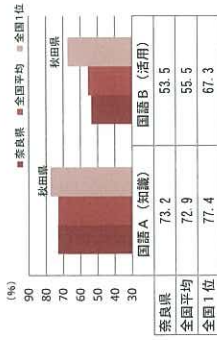
# 1 学力・学習意欲の向上

## 1-1 学力の状況(小学生)

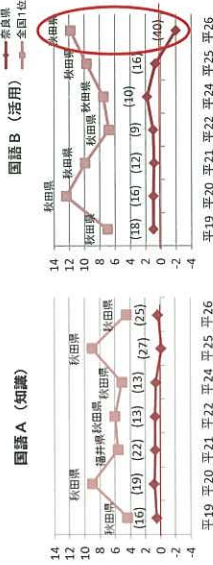
・平成26年度全国学力・学習状況調査の結果から、4教科の平均正答率でみると、全国平均を上回るのは国語A、算数Aの2教科(昨年度は3教科)に減少。特に、国語Bは全国平均を2.0ポイント下回り全国40位に低下。

参考: A問題は「知識」の問題であり、B問題は「活用」の問題であってPISA(OECDの国際比較学力テスト)型学力に対応する問題である。

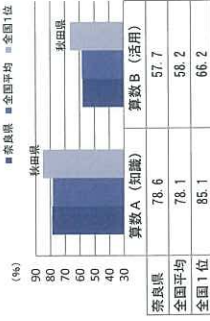
H26平均正答率(国語)



平均正答率の全国平均との差の推移

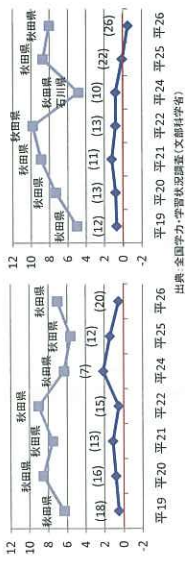


H26平均正答率(算数)



算数 B (活用)

算数 A (知識)



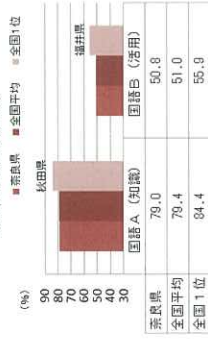
出典: 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

## 1-2 学力の状況(中学生)

・4教科の平均正答率で見ると、全国平均を上回るのは数学A・Bの2教科(昨年度は4教科)に減少。

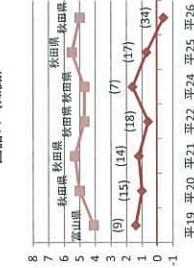
参考:A問題は「知識」の問題であり、B問題は「活用」の問題であってPISA(OECDの国際比較学力テスト)型学力に対応する問題である。

H26平均正答率(国語)

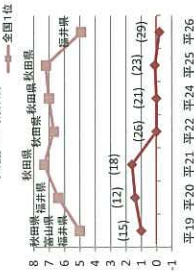


平均正答率の全国平均との差の推移

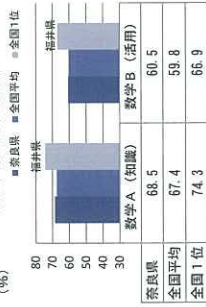
国語A (知識)



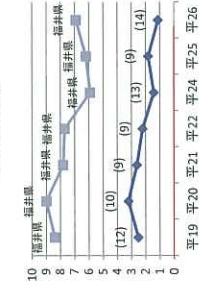
国語B (活用)



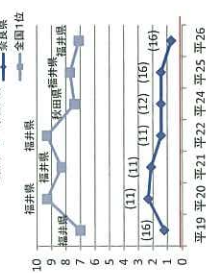
H26平均正答率(数学)



数学A (知識)



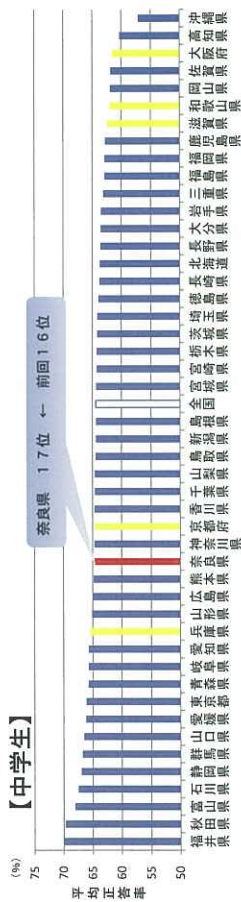
数学B (活用)



### 1-3 学力(都道府県別)

・都道府県別に平均正答率(4教科総合)をみると、奈良県は小学生27位(昨年度17位)、中学生17位(同16位)と順位を下げている。秋田県、福井県が昨年度と同様に小中とも上位を占めている。

注)4教科総合:国語A、B、算数・数学A、Bの各平均正答率を相加平均したもの

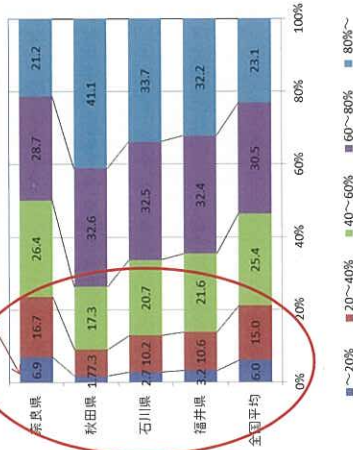


## 1-4 学力(小学生の平均正答率低下に関する分析) 国語B(PISA型学力問題)について

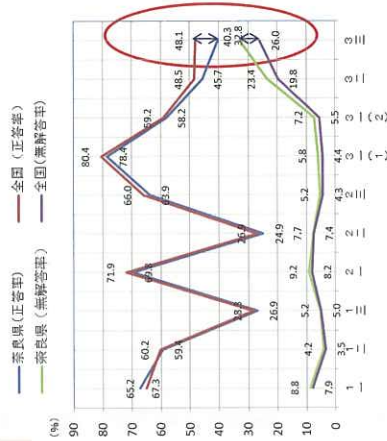
- 平均正答率が40%未満の児童の割合が全国平均に比べ多い。学力上位県は平均正答率80%以上の児童が多く、20%未満の児童が少ない。
  - 設問が後半になるほど、本県の無解答率が上昇するとともに正答率は低下し、全国平均との差が広がっている。
- **国語Bのような知識の活用を問う設問に不慣れな傾向がうかがえる。**

小学校 国語B 正答率分布一覧

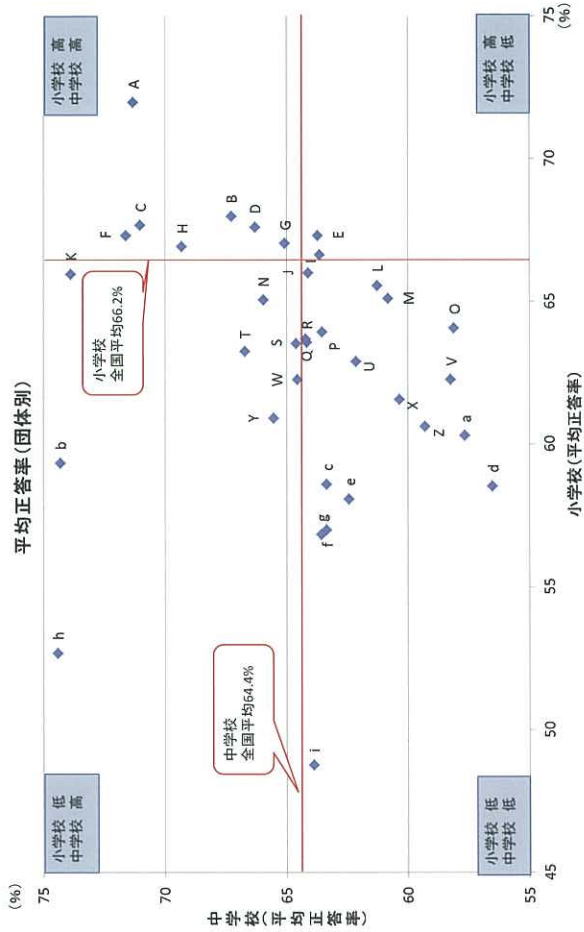
正答率が40%以下の児童23.6%(1631人)  
0点の児童2.5%(297人)



小学校 国語B 設問別正答率と無解答率



## 1-5 学力(小学校と中学校の関係)

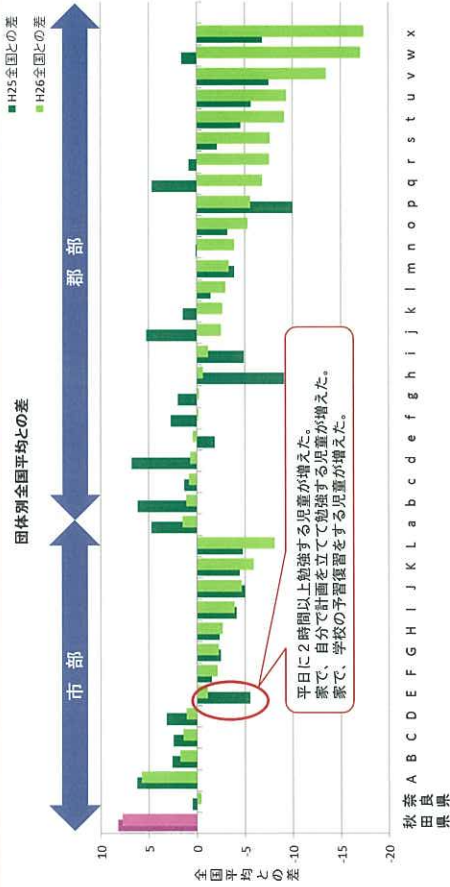


※ H26の児童・生徒数が3人以下の4団体は非表示。

## 1-6 学力(団別別)(小学生)

- 団別に平均正答率(4教科総合)をみると、全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち4団体33.3% (昨年度33.3%)、郡部では27団体のうち6団体22.2%(同48.1%)。

注)4教科総合:国語A、B、算数、数学A、Bの各平均正答率を相加平均したもの



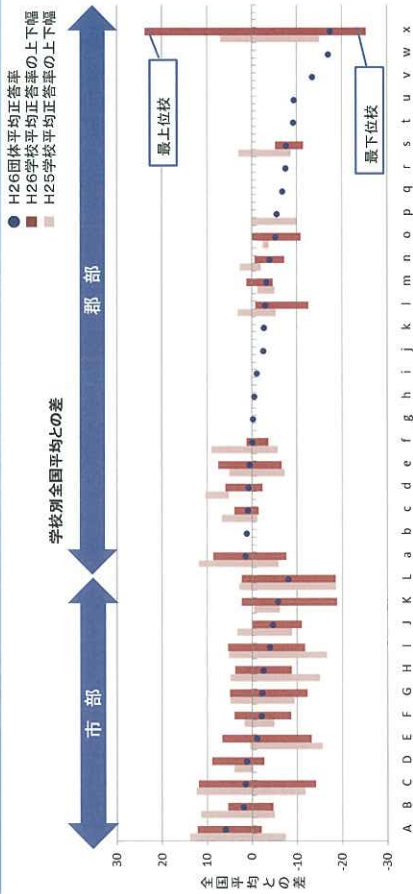
※ H25又はH26の児童数が3人以下の3団体は非表示。



## 1-7 学力(団体別学校分布)(小学生)

・団体別学校分布を平均正答率(4教科総合)で見ると、全国平均を上回っているのは、市部では150校のうち66校44.0%(昨年度62.5%)、郡部では53校のうち14校26.4%(同64.2%)、全体で203校のうち80校39.4%(同62.9%)であり、低位にある学校の学力の底上げが必要。

注) 4教科総合:国語A、B、算数・数学A、Bの各平均正答率を相加平均したもの

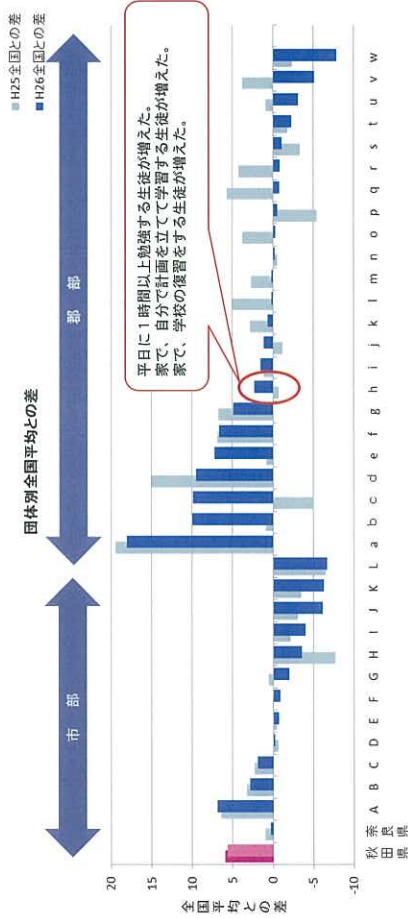


※ H25又はH26の児童数が3人以下の3団体は非表示。

## 1-8 学力(団体別)(中学生)

- ・団体別に平均正答率(4教科総合)をみると、全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち3団体25.0%(昨年度41.7%)、郡部では26団体のうち15団体57.7%(同65.4%)。

(注) 4教科総合：国語A、B、算数・数学A、Bの各平均正答率を相加平均したもの

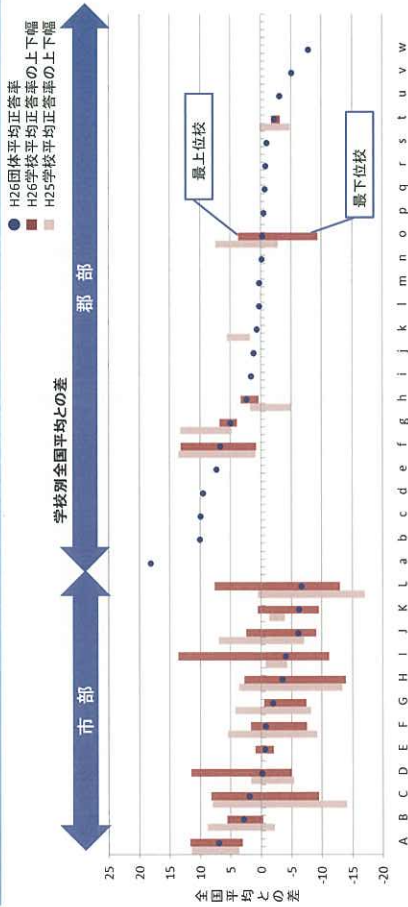


※ H25又はH26の生徒数が3人以下の3団体は非表示。

## 1-9 学力(団体別学校分布)(中学生)

- ・団体別学校分布を平均正答率(4教科総合)でみると、全国平均を上回っているのは、市部では71校のうち37校(52.1%(昨年度69.4%)、郡部では33校のうち21校(63.6%(同78.8%))、全体で104校のうち58校(55.8%(同72.4%))であり、低位にある学校の学力の底上げが必要。

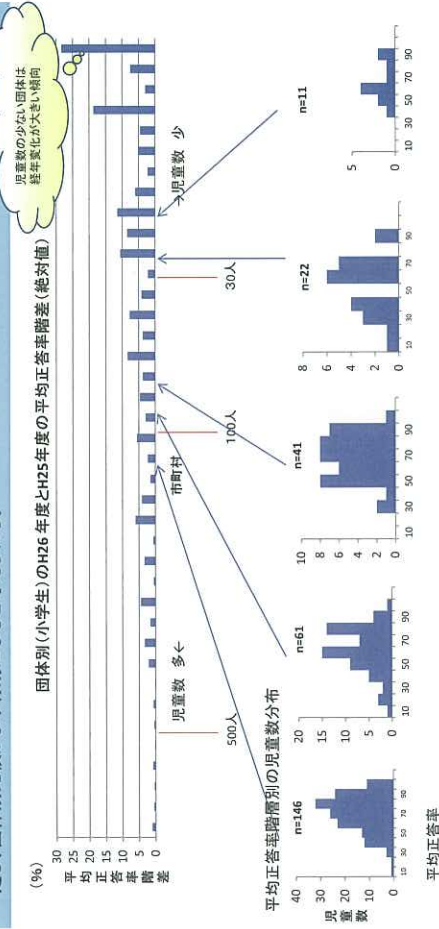
注)4教科総合:国語A、B、算数・数学A、Bの各平均正答率を相加平均したもの



※ H25又はH26の生徒数が3人以下の3団体は非表示。

## 1-10 学力(団体別)の留意事項について

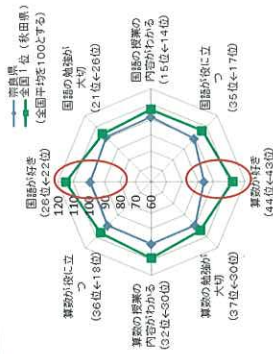
- 第2回サミット時の意見
  - ・小規模町村における少数の平均値がどこまで信頼があるのか。
  - ・正規分布に近い団体とそうでない少人数の団体が混在している。グラフの示し方に工夫が必要ではないか。
- 考え方
  - ・団体の児童生徒数(母数)が少ない時は、標本のバラツキが平均値に与える影響が大きいと考えられる。
  - ・一般に学力は正規分布に従うとされているが、統計学的には母数 $n \geq 30$ の時に正規分布に近づき平均値も安定し、団体別比較がより有効になると考えられる。



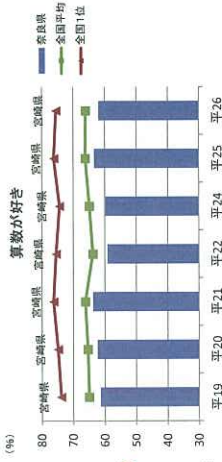
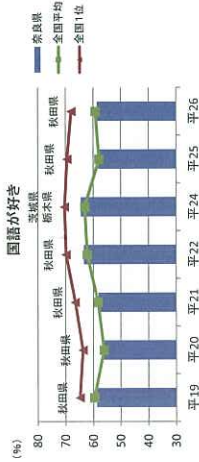
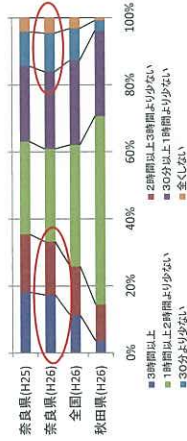
## 1-11 学習意欲(小学生)

・「国語が好き」の割合は昨年度と比較すると横ばいで全国平均並であり、「算数が好き」の割合は僅かに減少し全国平均を下回っている。全国1位との差は大きい。

・学習時間は全体的に微減の傾向を示すが「2時間以上」の割合は全国トップクラスである。一方で「30分未満」「全くしない」の割合も高く、二極化傾向が続いている。

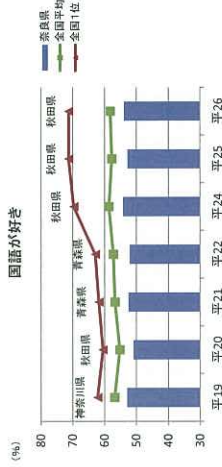
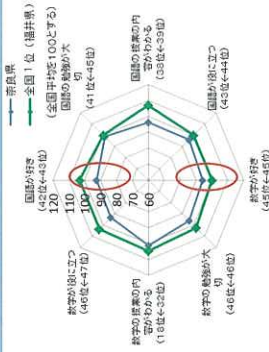


## 学習時間(平日・小学生)

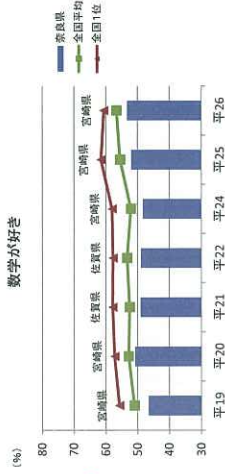


## 1-12 学習意欲(中学生)

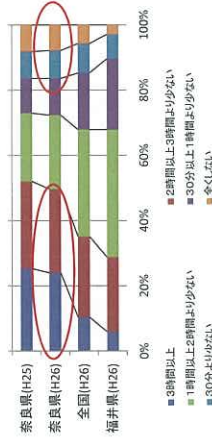
・「国語が好き」「数学が好き」のいずれの割合も昨年度と比較すると僅かに増加しているが全国平均を下回っている。全国1位との差は特に国語が大きい。  
 ・学習時間は全体的に微減の傾向を示すが「2時間以上」の割合は全国トップクラスである。一方で「全くしない」も多く、二極化が続いている。



数学が好き



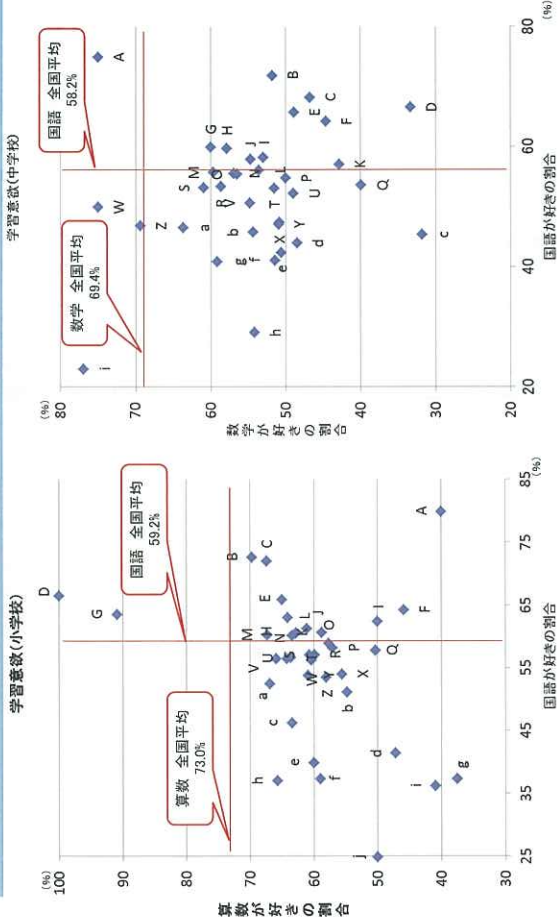
学習時間(平日・中学生)



出典: 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

## 1-13 学習意欲(団体別)

・ほとんどの団体で、「算数が好き」「数学が好き」「数学が好き」の割合が全国平均を下回っている。



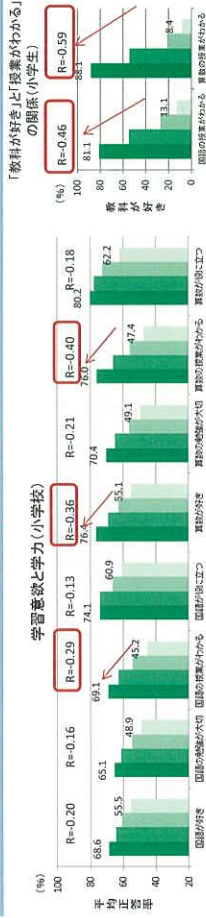
※ H26の児童数が3人以下の3団体は非表示。  
H26の生徒数が3人以下の3団体は非表示。

## 1-14 学力と学習意欲の関係

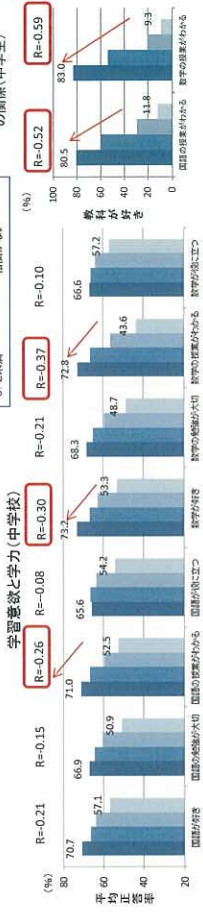
・学習意欲に関して肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高い傾向。特に、「国語の授業がわかる」「算数・数学の授業がわかる」「算数・数学が好き」は顕著な傾向を示している。

・「教科が好き」と「授業がわかる」には調査項目間では最も強い相関が認められる。

→ **学力・学習意欲を向上させるためには授業力の強化が重要**



R=相関係数(絶対値)  
 0.7以上 強い  
 0.4以上 0.7未満 中間の強さ  
 0.2以上 0.4未満 弱い  
 0.2未満 相関がない



■ 当てはまる ■ どちらかと言えば当てはまる ■ どちらかと言えば当てはまらない ■ 当てはまらない

出典: 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

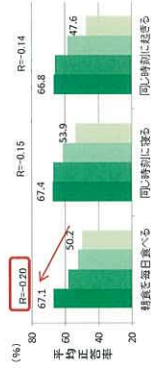


## 1-15 学力と基本的な生活習慣、メディアとの関係

- ・朝食を毎日食べるなど基本的な生活習慣が身に付いた児童生徒ほど平均正答率が高い傾向を示している。
- ・メディアとの関係については、「テレビゲームをする時間が短い」「携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間」が短い児童生徒ほど平均正答率が高い傾向を示している。

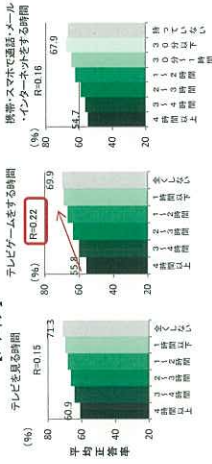
### 【小学生】

#### 【基本的な生活習慣】



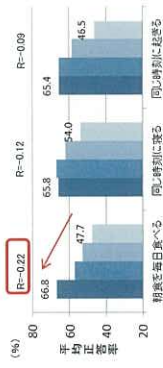
■している ■どちらかといえはばしている ■あまりしていない ■全くしていない

#### 【メディア】



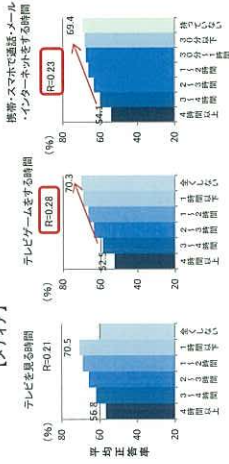
### 【中学生】

#### 【基本的な生活習慣】



■している ■どちらかといえはばしている ■あまりしていない ■全くしていない

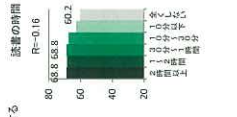
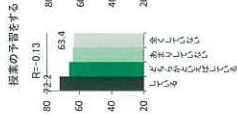
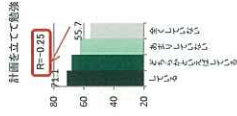
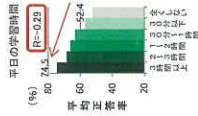
#### 【メディア】



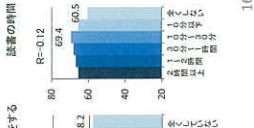
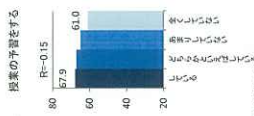
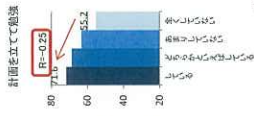
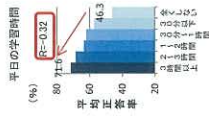
## 1-16 学力と家庭学習との関係

・「学習時間が長い」「自分で計画を立てて勉強する」「学校の宿題をする」「児童生徒ほど平均正答率が高い傾向。特に、学習時間との関係では顕著な傾向を示している。  
→ 適切な学習時間の確保と家庭学習の充実が重要

### 【小学生】



### 【中学生】



## 1-17 学力向上の取組例(五條市)

五條市

(平成25年度～平成26年度)

平均正答率

全国平均との差が小学校で4.4ポイント、中学校で4.2ポイント縮小し、大きく改善。

学習意欲

小学校「国語が好き」で5.4ポイント、「算数が好き」で6.5ポイント上昇  
(参考:中学校「国語が好き」0ポイントで変化なし、「数学が好き」6.4ポイント下降)

学習時間

平日2時間以上学習する割合が、小学校で6.7ポイント、中学校で5.2ポイント上昇

<五條市の学力向上に向けての取組>

- 「学力向上プロジェクトチーム」を編成し、調査の分析から、特に課題と思われる設問を学校に情報提供
- 全教員が過去の学力調査の問題に取り組んで、傾向や問われている学力を把握
- 地域住民や学生ボランティアによる補習教室や家庭学習の手引きを作成

<県教委としての支援>

- 平成25年度学力・学習状況調査結果の分析・活用についての指導
- 平成26年度学力向上実践研究推進事業の協力校に市内の小中学校を指定
- 指導主事の派遣回数(平成26年度21回の予定)

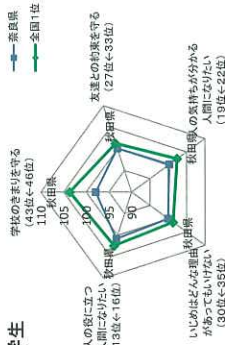
## 2 規範意識の醸成

### 2-1 規範意識の状況

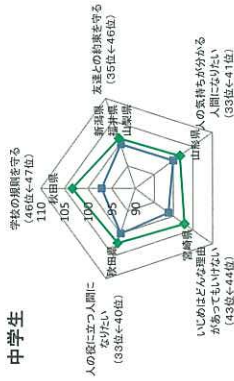
・規範意識の代表指標としての「学校のきまり・規則を守る」と回答した児童生徒の割合は一貫して増加傾向にある、全国平均との差も縮小。その他の規範意識に関する項目も全て改善傾向にある。

注)規範意識：広く集団生活の維持・向上のために一人一人が従うべき価値判断の基準を守らうとする意識

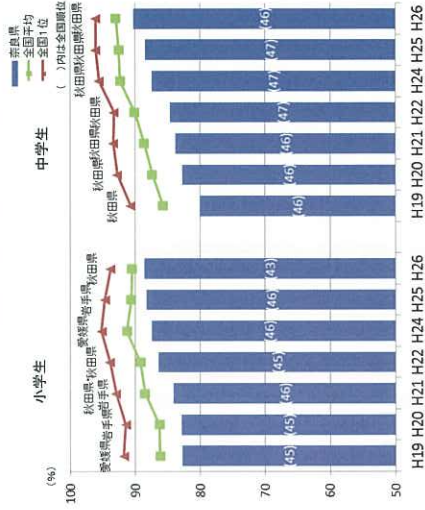
#### 小学生



#### 中学生

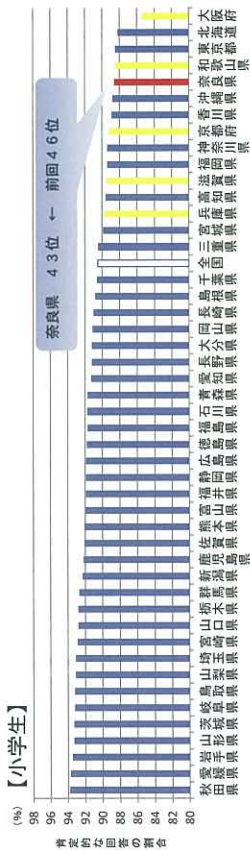


#### 「学校のきまり・規則を守る」と回答した子どもの割合の推移



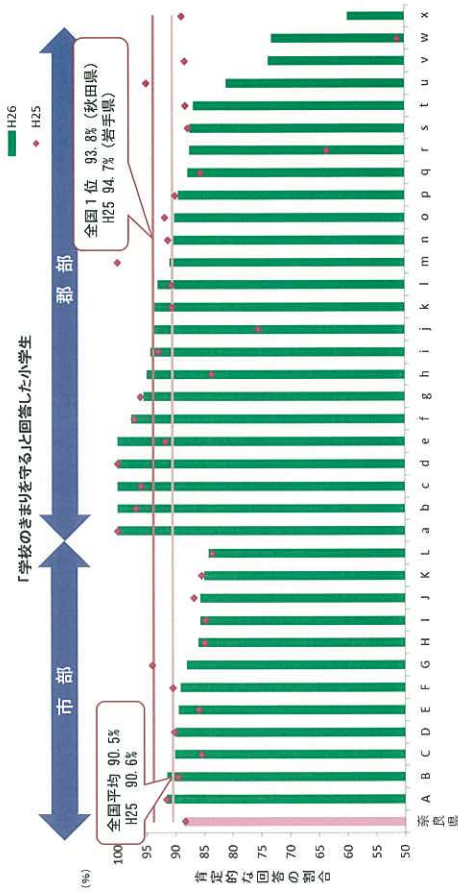
## 2-2「学校のきまり・規則を守る」の回答状況（都道府県別）

・都道府県別に「学校のきまり・規則を守る」と回答した児童生徒の割合をみると、奈良県は小学生43位（昨年度46位）、中学生46位（同47位）と順位を上げている。



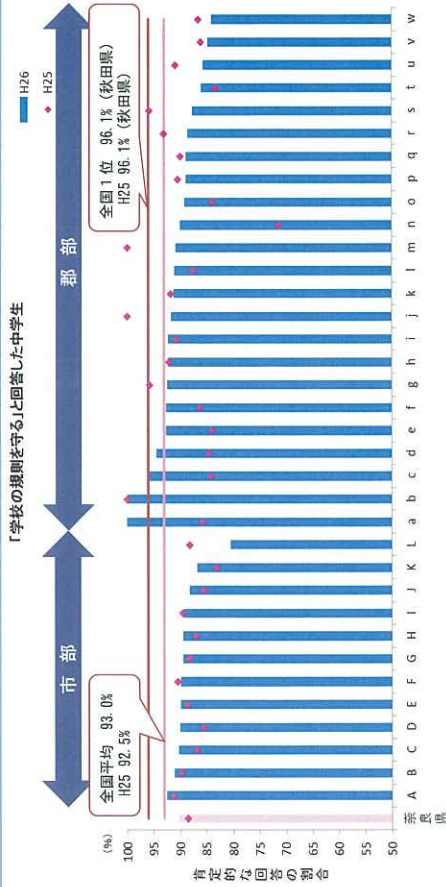
### 2-3 「学校のきまりを守る」の回答状況(団体別)(小学生)

・「学校のきまりを守る」と回答した児童の割合を団体別にみると、全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち2団体16.7%(昨年度16.7%)、郡部では27団体のうち16団体59.3%(同48.1%)、全体では39団体のうち18団体46.2%(同38.5%)である。



## 2-4 「学校の規則を守る」の回答状況(団体別比較)(中学生)

・「学校の規則を守る」と回答した生徒の割合を団体別にみると、全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち0団体(昨年度0%)、郡部では26団体のうち7団体(26.9%)、全体では38団体のうち7団体(18.4%)である(同21.1%)である。



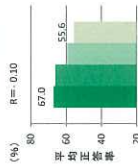
※ H25又はH26の生徒数が3人以下の3団体は非表示

## 2-5 規範意識と学力、基本的生活習慣、地域への関心との関係

・学力との関係では、「学校のきまり・規則を守る」児童生徒ほど平均正答率が高い傾向がうかがえる。  
 ・「朝食を毎日食べる」「同じ時刻に起きる」など基本的な生活習慣が身に付いた児童生徒ほど「学校のきまり・規則を守る」割合が高い傾向を示している。また、地域への関心については、「地域の行事に参加する」「地域や社会の出身者に関心」の割合が高い傾向がある児童ほど高い傾向を示している。

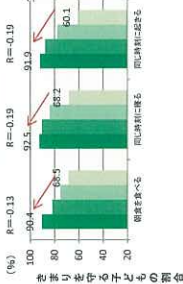
### 【小学生】

学校のきまりを守る



■当てはまる  
 ■どちらかといえば当てはまる  
 ■どちらかといえば当てはまらない  
 ■当てはまらない

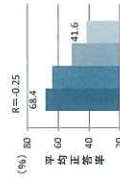
基本的な生活習慣との関係



■している ■どちらかといえばしている ■あまりしていない ■全くしていない

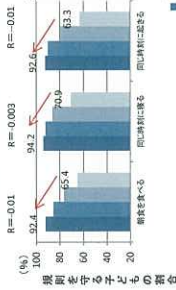
### 【中学生】

学校の規則を守る



■当てはまる  
 ■どちらかといえば当てはまる  
 ■どちらかといえば当てはまらない  
 ■当てはまらない

基本的な生活習慣との関係



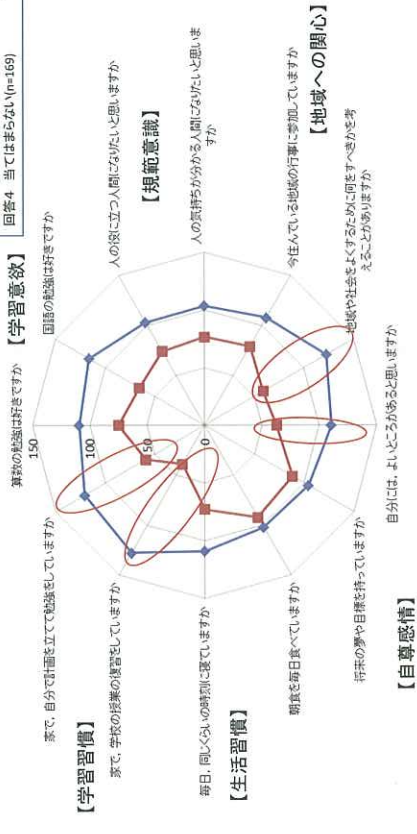
■している ■どちらかといえばしている ■あまりしていない ■全くしていない



## 2-6 学校のきまを守ると回答した児童と守らないと回答した児童の比較(小学校)

・「学習習慣」「学習意欲」「生活習慣」「規範意識」「自尊感情」「地域への関心」において「きまを守る」と回答した児童が「きまを守らない」と回答した児童を全ての上回っている。その中でも「家で計画を立てて勉強している」「家で授業の復習をしている」「地域や社会をよくするために何かすべき」「自分によいところがある」などの項目において特に開きが大きい。

質問:学校のきまを守っている  
 回答1 当てはまる (n=4304)  
 回答2 どちらかといえば当てはまる(n=6149)  
 回答3 どちらかといえば当てはまらない(n=1142)  
 回答4 当てはまらない(n=169)

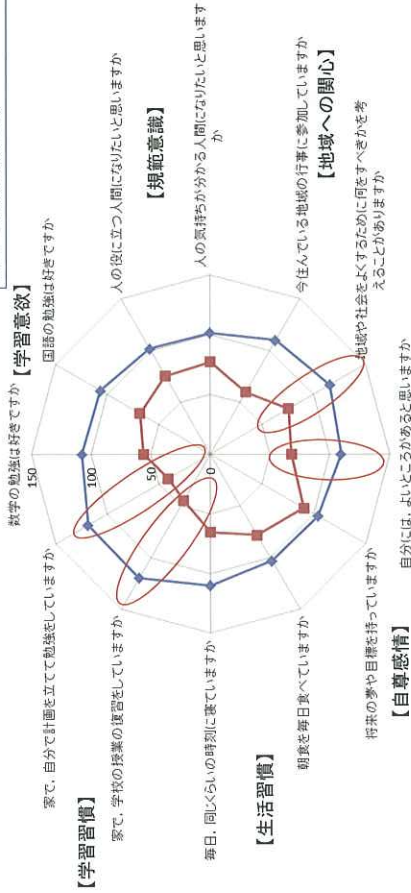


## 2-7 学校の規則を守ると回答した生徒と守らないと回答した生徒の比較(中学校)

・「学習習慣」「学習意欲」「生活習慣」「規範意識」「自尊心」「地域への関心」において「規則を守る」と回答した生徒が「規則を守らない」と回答した生徒を全ての項目において上回っている。その中でも「家で計画を立てて勉強している」「家で授業の復習をしている」「地域の行事に参加している」「自分によいところがある」などの項目において特に開きが大きい状況で「小学校」と同じ傾向がみられる。

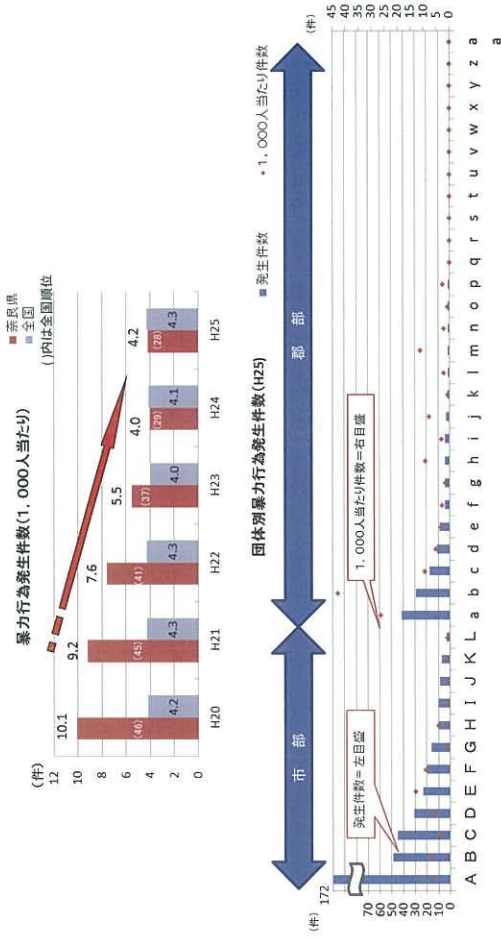
質問：学校の規則を守っている  
 回答1 当てはまる(n=5338)  
 回答2 どちらかといえば当てはまる(n=4663)  
 回答3 どちらかといえば当てはまらない(n=857)  
 回答4 当てはまらない(n=245)

- 規則を守ると回答した生徒(回答1)
- 規則を守らないと回答した生徒(回答4)



## 2-8 参考：暴力行為の発生件数

・規範意識と密接な関係にある暴力行為発生件数(1,000人当たり)についてみると、平成20年度は全国平均の2倍以上の高い水準であったが、その後減少し、平成24年度以降全国平均以下となっている。

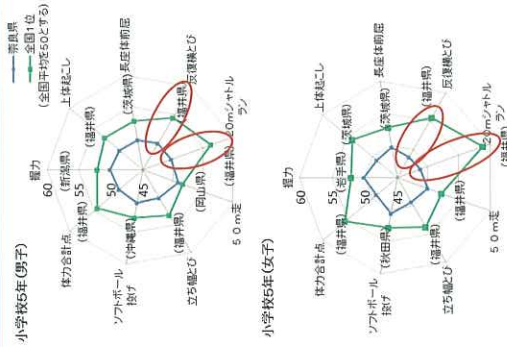


### 3 体力の向上

#### 3-1 体力の状況(小学生) ※平成26年度の調査結果が出ていないので前回サミット時の資料を再掲

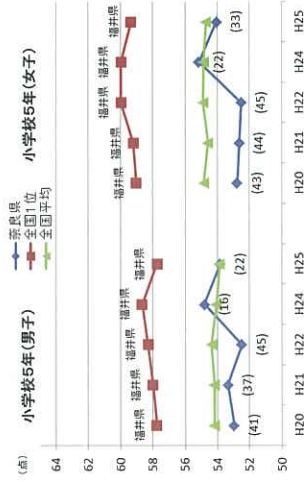
- 小学生の体力は、体力テストの体力合計点で見ると、男子、女子とも低位にあつたが、改善の傾向にある。
- 全国1位との差は、男子で3.92点、女子で5.31点の差がある。種目別にみると「20mシャトルラン」「反復横とび」の差が大きく、持久力や敏捷性に課題がみられる。

注)体力合計点:10点×8種目=80点



体力合計点の推移

( )内は全国順位

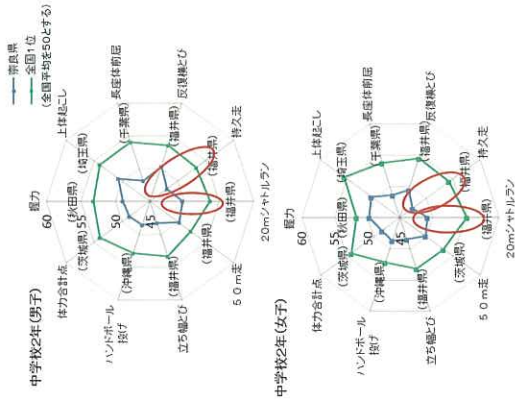


### 3-2 体力の状況(中学生)

※平成26年度の調査結果が出ていないので前回サミット時の資料を再掲

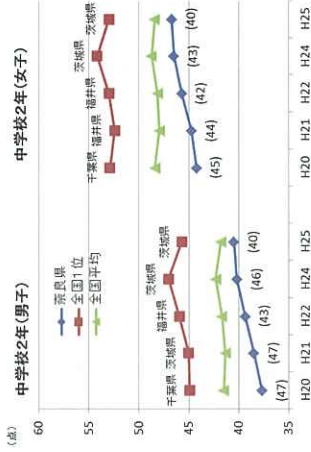
- ・中学生の体力は、体力テストの体力合計点で見ると、男子、女子とも改善傾向にあるもの、依然低位にある。
- ・全国1位との差は、男子で5.21点、女子で6.29点の差がある。特に男子、女子とも「持久走」「20mシャトルラン」の差が大きく、全身持久力に課題がみられる。

注)体力合計点:10点×8種目=80点(持久走、20mシャトルランはいずれか選択)



( )内は全国順位

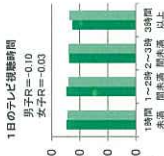
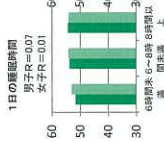
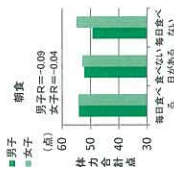
体力合計点の推移



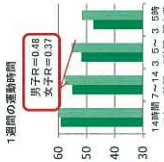
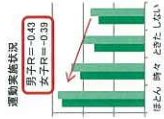
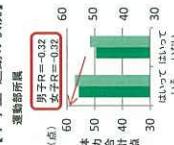
### 3-3 体力と基本的な生活習慣、運動の状況との関係

- ・「朝食を毎日食べる」児童生徒ほど体力が高い傾向がうかがえる。
- ・「運動部に所属している」「運動をよくする」児童生徒ほど体力が高い傾向が顕著にうかがえる。  
→児童生徒の運動量を増加させることが重要であり、運動部に所属することは有効。

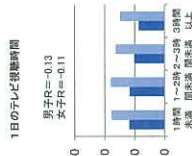
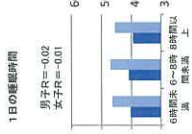
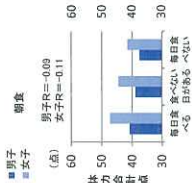
【小学生・基本的な生活習慣】



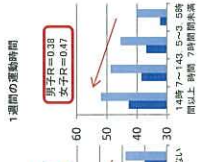
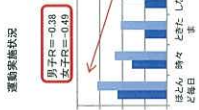
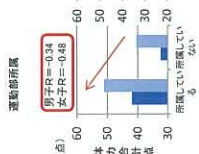
【小学生・運動の状況】



【中学生・基本的な生活習慣】



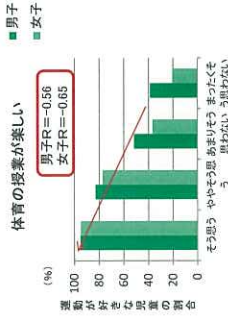
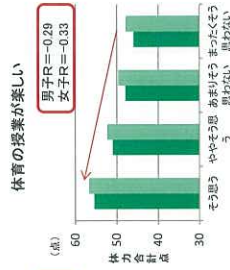
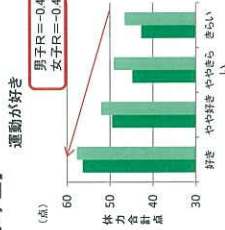
【中学生・運動の状況】



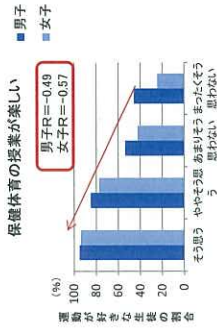
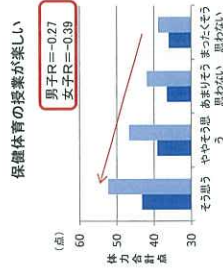
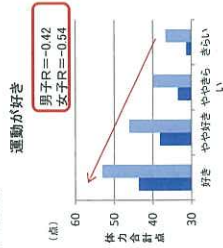
### 3-4 体力と運動に関する意識との関係

- ・「運動が好き」「運動が楽しい」と回答した児童生徒ほど体力が高い傾向。
- ・「運動が好き」と「授業が楽しい」には、相関が認められる。  
→ **運動意欲の増進とそのための授業力の強化が重要。**

#### 【小学生】



#### 【中学生】

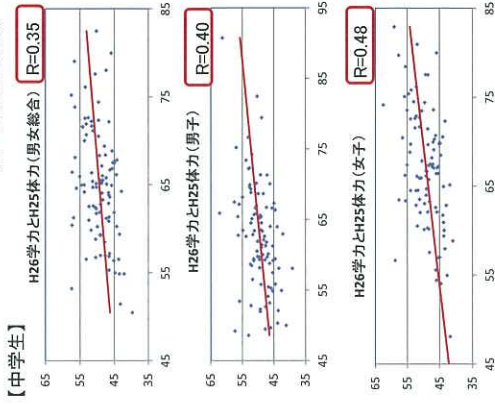
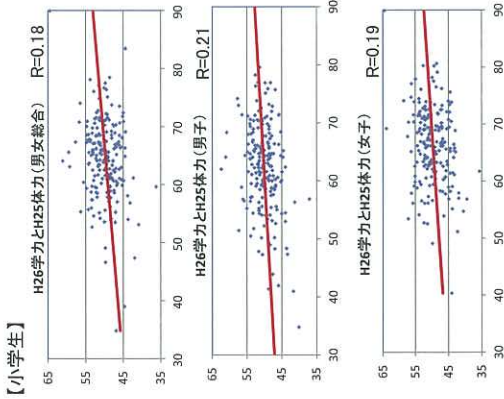


### 3-5 体力と学力の相関

・学校別に学力と体力の相関をみると、小学生では相関が弱いが、中学生になるとより強い相関がみられる傾向。

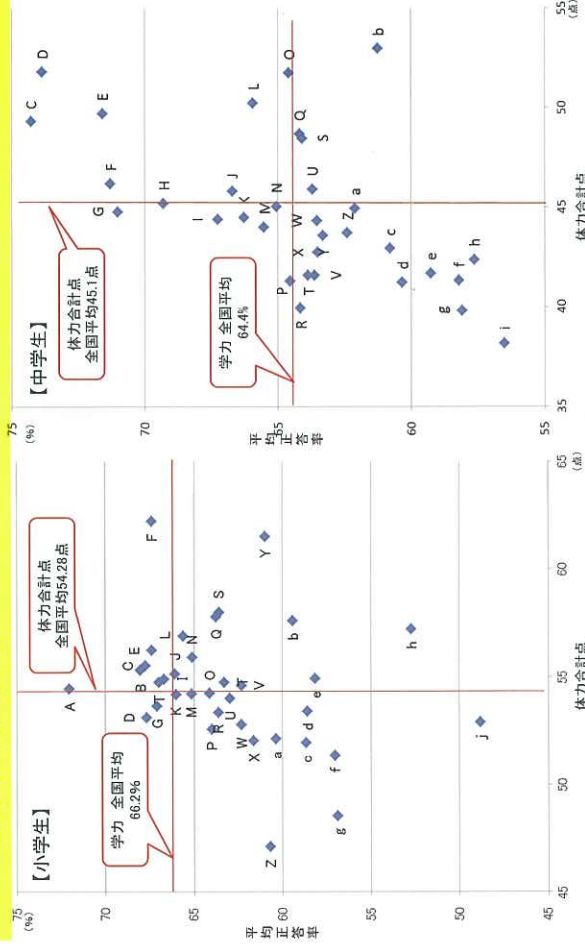
※ 小学生 H26学力テスト→6年生 H25体力テスト→5年生(現6年生)  
中学生 H26学力テスト→3年生 H25体力テスト→2年生(現3年生)

x軸=平均正答率(学力)  
y軸=体力合計点(体力)





### 3-6 体力と学力(団体別)



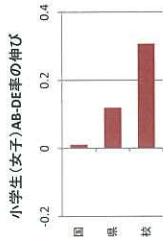
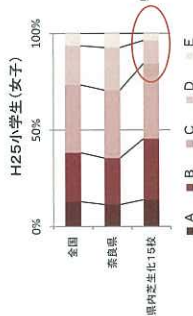
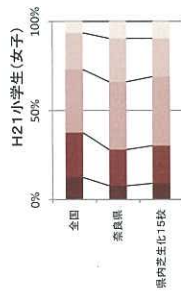
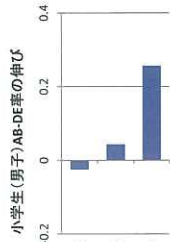
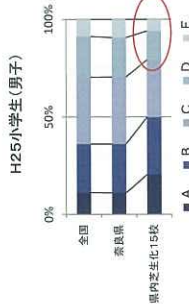
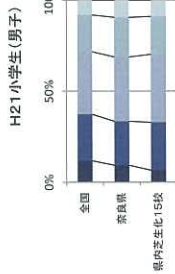
※H26の児童数が3人以下又はH25の児童数が3人以下及び男子又は女子児童数が0人の4団体は非表示

※H26の生徒数が3人以下又はH25の生徒数が3人以下及び男子又は女子生徒数が0人の5団体は非表示

### 3-7 運動場芝生化と体力の関係

- 学校の体力向上の取組の効果は、A段階やB段階の増加とD段階やE段階の減少から確認できる。芝生化校では、実施前と比べてD段階E段階の児童が減少しており、芝生化によって二極化を解消することができることがわかる。

注)体力合計点を各種目の総合評価基準表に照らし合わせ、合計点の高いものからA～E段階で評価している。

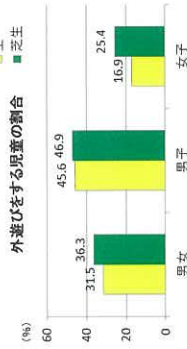


奈良県運動場芝生化実践校  
 平成21年度 小学校 9校  
 平成22年度 県立小学校 5校  
 平成23年度 小学校 6校  
 合計20校

## 3-8 運動場芝生化の効果

### ○外遊びをする児童が多い

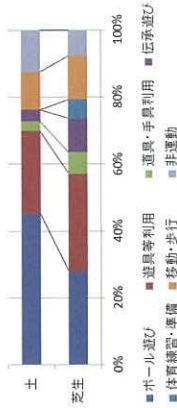
芝生化校で業間時間に外遊びをする児童の割合が高い。特に、女子の割合が高い。



また、芝生化校では、「運動場に寝転ぶ」「運動場に座る」「裸足で遊ぶ」「側方倒立回転・逆立ちをする」等の活動が多く見られる。

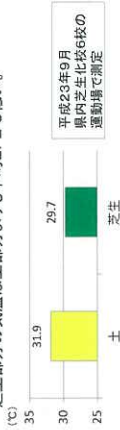
### ○外遊びの種類が多い

芝生化校の方が遊びの種類に幅が広い。



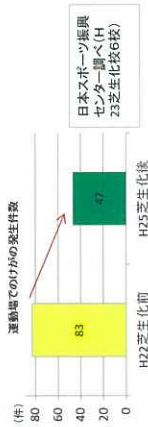
### ○運動場の気温が低い

芝生部分の気温は土部分よりも平均2.2℃低い。



### ○運動場でのけがが減少

運動場でのけがの件数は芝生化前に比べ、約4割減少した。特に擦り傷が減少した。



### ○保護者・地域の評価が高い

- ・運動会等の行事のときに砂埃が立たず好評である。
- ・「印象がよい」「癒やされる」等の声が多い。
- ・芝生の維持管理に保護者や地域住民が協力的。